

ジュノン (M)
Paris Biennale
78. 8. 月

白熱対談
横尾忠則
イラストレーター
VS
イラストレーター
山口はるみ

男の色気と ロマンチズム



対談に出るのは全く初めてという
んは、最初、少々緊張きみだつた。が、そ
は第 1 線で活躍するイラストレーター 同士。
仕事のうえで何度か会っているという横尾
さんとの話が進むにつれて、ピッタリと思
が合つてゆく……。

二人が語り終えたときは、もう夜の九時に近かった。ホテルニューオータニの和食レストラン「なだ萬」のガラス窓に、庭園の滝の流れが白く美しく映えた。

男と女は別れるとき、もつと
ののしり合ったほうがいいと思うよ

横尾 話が最初から飛躍してしまふけれども、男性のはうはだいたいロマンチックで、女性のはうは非常に現実的でしょう。前の家に行ったとき、カミさんは笑ってどつと前に越えたいときかんに言うのね。「うちなんかどうでもいいじゃないか」とばくは言うわけ。「あなたはいつも宇宙のことを考えたり、遠くののことを考えるから、うちが狭くっていいかわからないけど(笑)、わたしは家の中を歩いて机の角にぶつかるのはイヤよ」って、カミさんは答える。うちのカミさん、大きいからさ、「あんな飯食べるの減らして細くなれば、どんなすきまでもすいすい通り抜けられるよ(笑)」と。

女性はすごい現実的というか肉体的発想だね。ぼくなんか、すごい精神的な人間みたいに見えるけど、そのへんおもしろいね。

山口　会話してても、よく女の人で話が飛ん
だりする人は多いけど、その範囲がとつても
狭くて、わりと現実的なことの中で飛んてる
ということが多めじゃないの。男の人のほう
は広くて、しかも奥深いという点でも奥深
いんで——広くて深いというか、両方に遠く
まで行く感じがするのね。

横尾　ばくはUFOとか宇宙に関心があるわけ。それで女性と男性とどっちが、こんな生活に密着してないものに関心があるかっていうと、圧倒的に男のほうが多いのね。

山口 それは男だと思ふ。

横尾　でもね、考え方の角度を変えると、異性ってのはさまざまな現実のやっかいな問題がいっぱいあるでしょ。問題から逃げるために宇宙だなんて言っちゃう場合があるわけ。山口　そう。女の人は現実から逃げないということはあるかもしれない。

横尾 たから、男と女が恋愛すると、どちら
も同じ問題を起こしたにもかかわらず、男性
がいつも捨てたとか、逃げたという立場にお
かれちやうわけね。女性の要求する現実
に、男がおつきあいできなくなった結果なんだけ
どね。でも二人とも現実を凝視しちやうど
お互いにいつも金の勘定したりさ(笑)。ねえ
それもちよつとしんどいね。

山口 やつぱり、男は宇宙のことを考えて、女は貯金通帳をながめてるというのがいいんだやないかしら？ その反対でもないけど……でも、女でたとえばわたしのように働いてもいるし、なんとなくハウスキーパーみたいなのもやるというんだと、どつちもちゃんとできないうつうか、そういうふうになつちやうのね。お父さんみたいなことをしたり、お母さんみたいなことをしたりして……。

横尾 女性タレントの人たちの離婚の記者会見発表なんか見てると、「家庭と仕事が両立できなかった」って言うてしょう。「相手の男性を愛しているにもかかわらず、これ以上傷つけないから別れます」って。
山口 それが相手を傷つけない逃げの言葉よ。してはいっぱい便利よね。

横尾 ばくは、もつとのしつて別れたほうがいいと思うんだけどね。だって、そんな主練を持たせるようなことを言われると、男の場合は本気にしちゃうわけ。ついついふつ切れず、次の女性のところに飛んでいけないわけだね。女性は嘘を墓場まで持っていくといひ

「いますね。だって、UFOやなんかには
黄毛　いますね。」

「さういふときは、女性はいすこい嘘を
ついちやうのかなという感じがするの。
山口　でも、そのへんわりと個人差というか
男の人でもなかなかという人、いるんじゃないのかな。